

てんかんを
より深く
より広く
理解するための
展覧会

主催：第51回日本てんかん学会学術集会

「医療と研鑽と未来」

てんかんをめぐるアート展 2017



《パラレルワールド》 東谷賢佑

レノックス、ガストー症候群の彼は、現在23歳。毎日作業所に通所し幼いころから始めた水泳を続け、余暇活動の1つの絵画クラブも月に2回ほど通っている。

強い動物や危険な生物、海の生き物、ヒーローが好きで題材にすることが多く、この絵も強く危険なシャチから描き始めた。彼は、相手にいかに描いているものが強く危険かを説明しそれを認めさせる。しかしそこに描かれた草食動物や、凶暴なはずの肉食獣の表情がユーモラスでどこことなくひょうきんだったりする。この絵は黄色い世界の中に普通では決して同じ空間には存在しないはずの生き物たちがそれぞれのオーラを発しながら共存している。もしかしたらこんな世界もあるかもとふと思ってしまう。

“てんかん”を
テーマにした作品

2017.11.1～11.5 京都大学総合博物館

てんかんは100人に1人が患う頻度の高い脳の病気です。症状は短時間ながら、多様であり、また突然に起きます。てんかん治療は進歩しているにも関わらず、この特徴から病気に対する正しい理解が充分に進まず、社会的心理的な悩みを抱えている人は少なくありません。

てんかんのある人で芸術的な才能を発揮した人は多く知られています。作品を病気と結びつける必要はありませんが、病気があること、またそれに向き合うことで生み出される創作は存在します。発症を契機として、あるいはその病態ゆえに独特なアートを創出している人もいます。病気のある人を支える方が、その行為を通じて感じ取った心の動きをアートに表現することもあるでしょう。

日本てんかん学会は昨年、てんかんのある人と支える人のアート作品を一般公募し、「てんかんをめぐるアート展」を開催し好評を博しました。今年は11月1～5日に、京都で日本てんかん学会第51回年次学術集会に重ねて、第2回のてんかんをめぐるアート展を企画しております。

京都は明治のはじめに仏教界などの民間の努力が実って設置された京都療病院（現府立医大病院）の伝統からも示されますように医療に対する意識が高く、このような土地柄で疾患についての正しい認識を持ってもらうことは一般の方の啓蒙活動としてたいへんに重要です。本アート展が、アートに親しむとともに、てんかんとアートについて考える機会、さらにはてんかんの啓発に役立つ機会、そしててんかんのある人が社会参加するひとつの契機になればとおもいます。

「てんかんをめぐるアート展」運営委員長 池田昭夫

展覧会概要 〈会期〉2017年11月1日（水）～5日（日）

〈会場〉京都大学総合博物館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Tel: 075-753-3272

Fax: 075-753-3277

Mail: info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp

http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/

開館時間 9:30～16:30（入館は16:00まで）

入館料 一般400円 高校・大学生300円 小中学生200円

※20名以上の場合は、団体観覧料が適用されます。

※京都大学学生および教職員、京都府下の大学在籍の学生は無料。

※障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方1名、および70歳以上の方は無料です。（年齢確認ができるものをご提示ください。）

お問い合わせ 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54

京都大学大学院医学研究科 てんかん・運動異常生理学講座内
「てんかんをめぐるアート展」事務局

Mail: art_ten@bpp2.kuhp.kyoto-u.ac.jp

Fax: 075-751-3663

http://www.c-linkage.co.jp/jes51/art.html

※お問い合わせは、基本的にメールでお願いいたします。

お名前、ご住所、電話番号、メールアドレスを明記の上、お送り下さい。

アクセス 〈京都市バスをご利用の場合〉

・JR／近鉄京都駅から17,206系統

・阪急河原町駅から3,17,31,201系統

・地下鉄烏丸線今出川駅から201,203系統

・地下鉄東西線東山駅から31,201,206系統

百万遍（ひゃくまんべん）停留所で下車 徒歩約2分

〈京阪電鉄をご利用の場合〉

京阪本線 出町柳（でまちやなぎ）駅で下車、

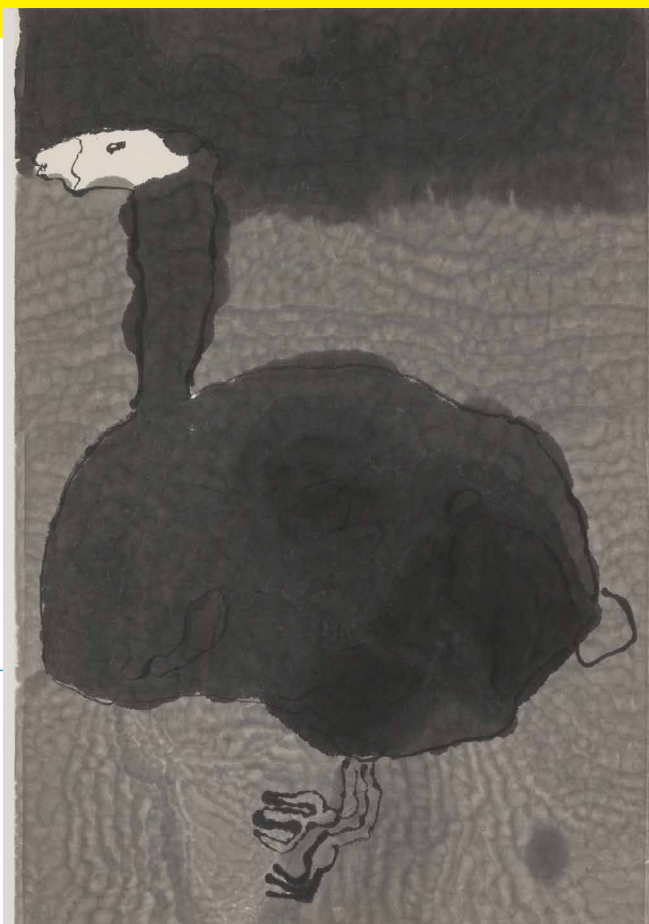
今出川通りを東進。百万遍（ひゃくまんべん）交差点を南に折れてすぐ。（出町柳駅から徒歩15分）



※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

主催：第51回日本てんかん学会学術集会 共催：京都大学総合博物館、独立行政法人 国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター

後援：医療・芸術・脳科学融合プロジェクト、京都府、京都市、一般社団法人京都府医師会、公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー、京都新聞



《鳥》 茶谷節子

乳児期に大きな発作をおこし、以来右半身マヒとなりましたが左手で何でもこなします。発作とつきあいながら、養護学校卒業後は18年間おしぼりのクリーニング工場で働きました。その後、アトリエで絵を描くようになりました。

この絵は墨だけで、穂先の点描で時間をかけて描きました。

《さくら》 葉

通っている学校の校庭に毎年咲く大きい桜の木をイメージして描きました。一本の桜の木を大きく描き、花びらは何種類かの折り紙で作って一枚一枚貼り付けました。空には習字紙に色を塗り切って貼り付け春の空らしく工夫しました。花びらを一枚一枚貼り付けるのに苦労しました。

てんかんとは3歳から6年の付き合いです。今は薬を飲んで2年発作は起きていません。毎年朝晩「薬飲んだ？」の掛け声はまだまだ日課です。今までは体のことを思い色々なことを制限してあきらめさせてきましたが、今年の夏は新しいことにチャレンジして自分らしく輝けるように楽しく生活を送っています。（代筆 母）

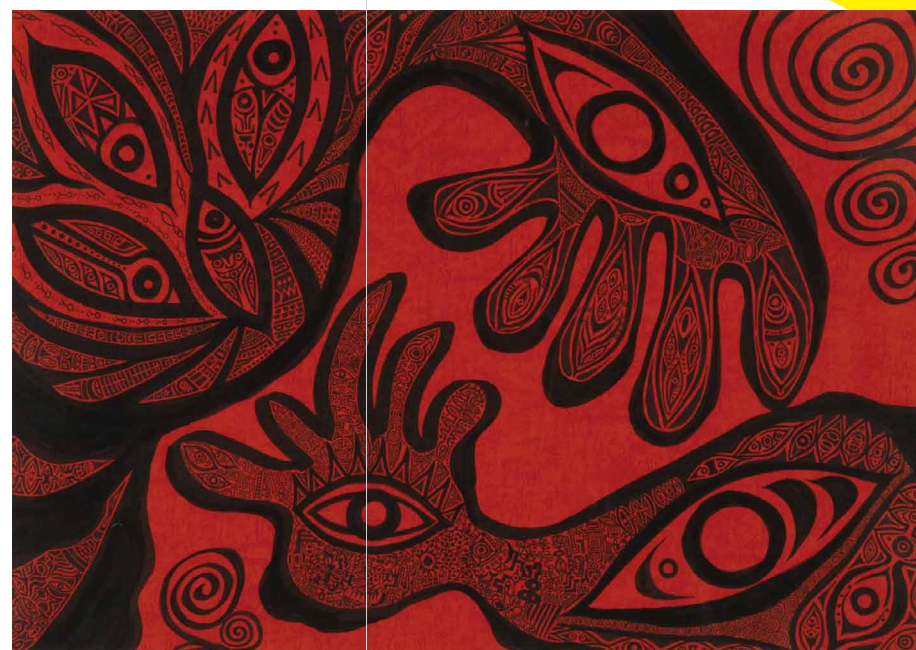


21年前の事故で人工頭蓋骨になり、手が動きづらくなった為、何もやる気がおきず過ごしてきたが、2年前入院していた時に同室になった友人のおかあさんから「伊田君も好きな事から始めてみたら」と勧められて。昔は絵を描いていたので、20年ぶりに描いてみた。

虹が好きで僕にとっては希望のシンボル。今回はアジサイを描いてみた。描くという希望が出来たので、少しずつ続けていきたい。

《俺の虹の花》

伊田隆之



《ゆめのなかで》 高野穂

ぼくは、勉強がとくいではないけど、走ることが大好きです。ペンギンは飛べないけど、泳ぐのが上手です。でも、ゆめの中でなら、何でもできそうな気持ちになります。

2才でてんかん発症。現在、経過観察中。知的障がいに伴う自閉症で走ることが大好きな中学1年生です。（代筆 母）



《渦、せめぎ合い》

田部井香織

湧き起る感情のせめぎ合いや
飲み込まれそうになる不安。

穂